

科目名	医学英語						
科目名(英)	Medical English (Introduction to Medical English)						
単位数	2		時間数	21		担当者	山下温子
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	リハビリテーションにまつわる英語の語彙・文を広く学習し、全体的なリハビリ英語の基礎を学びます。その後言語聴覚的な領域に踏み込み、より実践に近い英語の語彙をインプット⇒グループ・ペアワークでのアウトプット練習を行います。特殊な語彙の習得と、活発なやり取りを通じ実践的な定着を狙います。						
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				特殊な医療英語と文法のインプット	
	○	○				インプットした医療英語と文法・会話のアウトプット	
	○	○				実践に即した場面練習においてロールプレイを臨場感を持って行う	
	○	○				インプット・アウトプットした医療英語・文法・会話の定着	
				○		積極的な実践ロールプレイへの参加、医療英語の暗記とテストへの準備	
テキスト・教材 参考図書	リハビリテーションの基礎英語第三版 ISBN 9784758309615						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション/自己紹介/授業の説明				既習事項の復習 単語テストへの準備	
	2	Introduction:What is health?				既習事項の復習 単語テストへの準備	
	3	Introduction:Exercise for everyone				既習事項の復習 単語テストへの準備	
	4	Introduction:Overview of the body				既習事項の復習 単語テストへの準備	
	5	Introduction:Exercise programs				既習事項の復習 単語テストへの準備	
	6	Chapter I :What is rehabilitation?				既習事項の復習 単語テストへの準備	
	7	Chapter I :Phisical,Therapy and Phisical Therapists				既習事項の復習 単語テストへの準備	
	8	Chapter I :Occupational Therapy and occupational Therapists				既習事項の復習 単語テストへの準備	
	9	Chapter I :Speech and language therapy and speech and language therapists				既習事項の復習 単語テストへの準備	
	10	Chapter II 前半				既習事項の復習 単語テストへの準備	
	11	Chapter II 後半				既習事項の復習 単語テストへの準備	
	12	Chapter IV言語障害前半				既習事項の復習 単語テストへの準備	
	13	Chapter IV言語障害後半				既習事項の復習 単語テストへの準備	
	14	復習・進度調整				既習事項の復習 単語テストへの準備	
	15	定期試験					
評価方法	(1)2回目以降授業の中で小テスト(単語テスト)を毎回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)毎回の授業の積極性を確認する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				30%
	小テスト	◎	◎				40%
	出席態度				◎		30%
履修上の注意							

科目名	内科学 I						
科目名(英)	Internal Medicine I						
単位数	1		時間数	30時間		担当者	眞崎 義憲
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	大学病院にて医師として勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	・言語聴覚療法実施において不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。 ・言語聴覚療法に関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。 ・内科疾患の成り立ちを知ること、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・内科疾患の症状を理解することで、言語聴覚療法治療上でのリスク管理を理解する。						
授業形式	講義： ○		演習：		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○				内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				言語聴覚士が関わる内科疾患の治療実践を説明できる。	
	○	○		○		言語聴覚療法の中で内科疾患治療の必要性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	診断と治療				教科書で予習しておく。	
	2	症候学				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	3	循環器疾患 総論				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。	
	4	循環器疾患 各論				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。	
	5	呼吸器疾患 総論				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。	
	6	呼吸器疾患 各論				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。	
	7	消化器疾患 総論				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。	
	8	消化器疾患 各論				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。	
	9	腎臓疾患 総論				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	10	腎臓疾患 各論				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	11	膠原病・アレルギー・免疫疾患 総論・各論				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	12	内分泌・代謝疾患 総論・各論				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	13	血液・造血器疾患 総論・各論				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	14	感染症疾患 総論・各論 再生医療 総論・各論				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	リハビリテーション医学									
科目名(英)										
単位数	1			時間数	30時間		担当者	飯塚病院		
実施年度	2020年度			実施時期	前期		実務家教員 担当科目	各専門職として病院に勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年									
授業概要	リハビリテーション医療の役割について理解し、その構造を把握する。 また、リハビリテーション医学における関係職種の役割について把握し、チームアプローチの重要性を理解する。									
授業形式	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				リハビリテーションの歴史について説明できる。				
	○	○				リハビリテーションの理念と対象について分類でき説明できる。				
	○	○				リハビリテーション関係職種の役割について把握し説明できる。				
	○	○				救命医学の基本概念が説明できる。				
	○	○	○			基本的救命措置が実施できる。				
テキスト・教材 参考図書	なし									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	リハビリテーション医学の成り立ち					授業資料を基に復習する			
	2	リハビリテーションの理念と対象					授業資料を基に復習する			
	3	診断と評価 各種疾患の臨床 1					授業資料を基に復習する			
	4	診断と評価 各種疾患の臨床 2					授業資料を基に復習する			
	5	リハビリテーション医学とリハビリテーションの全体像					授業資料を基に復習する			
	6	リハビリテーションチームについて					授業資料を基に復習する			
	7	各種アプローチについて 看護学					授業資料を基に復習する			
	8	各種アプローチについて 社会福祉学					授業資料を基に復習する			
	9	各種アプローチについて PT概論					授業資料を基に復習する			
	10	各種アプローチについて OT概論					授業資料を基に復習する			
	11	各種アプローチについて 介護福祉士の仕事					授業資料を基に復習する			
	12	各種アプローチについて 歯科衛生士とSTとのかかわり					授業資料を基に復習する			
	13	各種アプローチについて 栄養士とSTとのかかわり					授業資料を基に復習する			
	14	救命救急の実際					授業資料を基に復習する			
	15	まとめ					授業資料を基に復習する			
評価方法	以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	◎	◎				35%			
	実技			○			20%			
	宿題・レポート		○		○		40%			
	質問・取り組み				○	○	5%			
履修上の注意	まとめ課題レポートあり。小テスト評価に含む。									

科目名	臨床神経科学						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	片伯部 裕次郎
実施年度	2020年度		実施時期	通年(前期)		実務家教員 担当科目	医師として病院勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	神経内科の基礎知識の習得						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				神経内科におけるリハビリテーションの評価方法を概説できる。	
		○				脳神経に関する生理、病理、解剖を概説できる。	
		○				中枢神経、末梢神経に関する病態について概説することができる。	
		○				高次脳機能障害について概説することができる。	
		○				嚥下機能、気管切開、胃ろうについて概説することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書： 医学書院：標準理学療法学・作業療法学 ～専門基礎分野～， 神経内科学 PT,OT基礎から学ぶ神経内科学ノート：医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	リハの総論。神経内科におけるリハビリ評価方法。				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2	神経内科に必要な生理、病理、解剖学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	脳Ⅻ神経(前編)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4	脳Ⅻ神経(後編)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	神経内科の検査方法。筋電図、筋生検、CT、MRIなど				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6	意識障害、記憶				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	筋の萎縮、錐体路症状、中枢性麻痺と末梢性麻痺				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8	錐体外路と不随意運動				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	9	失調症の検査と診断				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	10	高次脳機能障害1(失認、失語、失行)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	11	高次脳機能障害2(失認、失語、失行)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	12	嚥下機能、気管切開、胃ろう				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	13	まとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	14	まとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	臨床心理学						
科目名(英)	Clinical psychology						
単位数	1		時間数	30時間		担当者	富永 明子
実施年度	2020年度		実施時期	通年(前期)		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	臨床心理学の基礎理論を学ぶことを通して、人のこころのしくみ、およびこころの問題について理解する。さらに、代表的な心理アセスメント、心理療法について学習し、臨床心理学 的な支援の具体的方法について知り、理解する。さらに、他者との関わりや自分自身について の思考、感情、言動をふり返り、理解する視点をもつ機会とする。						
授業形式	講義： ○		演習：		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				人格理論を列挙できる。また、それぞれについて概説できる。	
	○	○				発達理論を列挙できる。また、それぞれについて概説できる。	
	○	○				心理アセスメントを列挙できる。また、それぞれについて概説できる。	
	○	○				心理療法を列挙できる。また、それぞれについて概説できる。	
				○	○	他者とのかかわりや自分自身について振り返り、理解する視点を持つことができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書： 「心とかかわる臨床心理」―基礎・実際・方法」川瀬正裕・松本真理子・松本英夫著 ナカニシヤ出版 「はじめて学ぶ人の臨床心理学」杉原一昭監修 中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	授業の概要、臨床心理学とは何か					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく
	2	人格理論① 精神分析理論、分析的心理学					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく
	3	人格理論② 自己理論、自己愛理論					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく
	4	発達理論① 分離-個体化理論、対象関係論					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく
	5	発達理論② 心理・社会的発達理論					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく
	6	心理アセスメント① 情報の収集と整理、発達検査、知能検査					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく
	7	心理アセスメント② 人格検査(質問紙法)					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく
	8	心理アセスメント③ 人格検査(投影法)、その他の検査					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく
	9	心理療法① 心理療法の基本的態度、クライエント中心療法					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく
	10	心理療法② 精神分析療法、分析的心理療法					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく
	11	心理療法③ 遊戯療法、芸術療法					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく
	12	心理療法④ 森田療法、家族療法					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく
	13	心理療法⑤ 行動療法、認知行動療法					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく
	14	心理療法⑥ 自律訓練法、集団心理療法					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意							

科目名	学習・認知心理学						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	大森 晶子
実施年度	2020年		実施時期	通年(前期)		実務家教員 担当科目	施設において言語聴覚士として勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	高次脳などに深く関わる人の認知を理解する						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				視覚メカニズムについて概説することができる。	
	○	○				条件付けについて概説することができる。	
	○	○				強化および消去について概説することができる。	
	○	○				社会的学習について概説することができる。	
	○	○				視覚・学習について概説することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:学習の心理 行動のメカニズムを探る サイエンス社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	視覚メカニズムとレポート様式				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2	古典的条件付け				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	古典的条件付け				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4	味覚嫌悪・高次条件付け				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	オペラント条件付け(オペラントメカニズム)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6	三項随伴性・強化メカニズム				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	正負の強化				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8	消化のスケジュール				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	9	社会的学習(観察・学習)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	10	社会的学習(模倣学習・問題解決)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	11	視覚(視覚の基盤・眼球)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	12	視覚・学習・復習				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	13	視覚・学習・復習				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	14	まとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	15	まとめ					
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				90%
	レポート	○	◎				10%
履修上の注意							

科目名	リハビリテーション概論										
科目名(英)											
単位数	1		時間数		30時間		担当者		福島 志津		
実施年度	2020年度		実施時期		前期		担当者実務経験		小児施設で言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年										
授業概要	グループワークを通して ①リハビリテーションの基礎を知る。②チームアプローチの重要性を理解する。③様々な年代の人とのコミュニケーション能力の向上を図る										
授業形式	講義: ○		演習: ◎		実習:		実技: ○		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				リハビリテーションの理念と概念について説明できる					
	○	○		○		国際生活機能分類(ICF)と国際障害分類(ICIDH)の特徴と相違が説明できる					
				○		グループワークやディスカッションを通して、チームアプローチの重要性を理解する					
		○		○		職業人(言語聴覚士)としての自分自身の目標を設定できる					
テキスト・教材 参考図書	無し。										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	自己紹介、言語聴覚士としての目標設定					ライフステージに沿った目標を考える(60分)				
	2	目標シート作成					目標シート修正(30分)				
	3	コミュニケーション能力向上のゲーム					メンバーを変えて再度実施する(30分)				
	4	後輩(1年生)に伝えたいこと					伝えたい内容をまとめる(30分)				
	5	リハビリテーションとは？					クラッシーで振り返り課題を実施(30分)				
	6	リハビリテーションの理念と概念、歴史(STの歴史も含む)					クラッシーで振り返り課題を実施(30分)				
	7	コミュニケーション能力向上のゲーム成り立ちについて					クラッシーで振り返り課題を実施(30分)				
	8	他職種の仕事を知る(医師・看護師)					クラッシーで振り返り課題を実施(30分)				
	9	他職種の仕事を知る(公認心理師、臨床心理士、ソーシャルワーカー)					クラッシーで振り返り課題を実施(30分)				
	10	他職種の仕事を知る(理学療法士)					クラッシーで振り返り課題を実施(30分)				
	11	他職種の仕事を知る(作業療法士)					クラッシーで振り返り課題を実施(30分)				
	12	他職種の仕事を知る(栄養士)					クラッシーで振り返り課題を実施(30分)				
	13	演習:模擬症例でチームアプローチ					クラッシーで振り返り課題を実施(30分)				
	14	演習:模擬症例でチームアプローチ					クラッシーで振り返り課題を実施(30分)				
	15	自己目標の修正					自己目標シートに加筆修正を加え提出する(60分)				
評価方法	(1)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	レポート	○			○		100%				
履修上の注意											

科目名	言語聴覚障害総論Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	福島 志津
実施年度	2020年度		実施時期	前期		担当者実務経験	小児施設で言語聴覚士として勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	言語聴覚療法に関わる、これまで学んだ知識や技術を統合できるように、実習の目的について理解を促す。また、実習に取り組んだ成果を振り返ることにより、学んだ知識や技術を実践に結びつけていけること、そして医療従事者としての心構えを、身につけることも目標とする。						
授業形式	講義：△		演習：○		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1年次の1日見学実習について振り返り得られた観察点や言語聴覚療法についての感想を要約し説明できる。	
	○	○				グループ活動における留意点や効果的な取り組み姿勢について理解する。	
	○	○	○			医療従事者としての行動や身だしなみなどのマナーを理解し実践することができる。	
	○	○		○		対人技能を身につけ、インテークが基本的に施行でき、そしてその意味について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	プリント資料、評価実習の手引き						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日見学実習報告会				事前に報告会資料を30分程度読み質問事項を考えておくこと	
	2	1日見学実習報告会				事前に報告会資料を30分程度読み質問事項を考えておくこと	
	3	1日見学実習報告会				事前に報告会資料を30分程度読み質問事項を考えておくこと	
	4	合同合宿を振り返る				グループについて話し合った内容を30分程度考え、レポートとしてまとめる	
	5	合同合宿における問題点や今後の課題について発表				グループでレポートとしてまとめたものの発表準備を1時間程度しておくこと	
	6	医療における対人技能とは				資料をもとに30分程度復習しておくこと	
	7	医療職としての対人技能の実際				本日演習したことを、自主的に1時間程度練習しておくこと	
	8	医療職対人技能テスト				事前練習と振り返りを30分程度すること	
	9	医療職対人技能テスト				事前練習と振り返りを30分程度すること	
	10	医療職対人技能テスト				事前練習と振り返りを30分程度すること	
	11	言語聴覚療法におけるインテークとは				資料をもとに30分程度復習しておくこと	
	12	言語聴覚療法におけるインテークの実際				本日の演習内容について自主的に30分程度練習しておくこと	
	13	インテーク実技テスト				事前練習と振り返りを30分程度すること	
	14	インテーク実技テスト				事前練習と振り返りを30分程度すること	
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で実技テストを実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技テスト	◎	○	◎	◎		60%
	レポート	○	◎		◎		40%
履修上の注意							

科目名	失語症Ⅱ									
科目名(英)	AphasiaⅡ									
単位数	2単位			時間数	60時間			担当者	高津原 直樹	
実施年度	2020年度			実施時期	前期			担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務	
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年									
授業概要	1. 失語症に関わる各種検査法を学び、評価・診断について理解する。 2. 評価・診断結果から問題点を抽出し、掘り下げ検査や治療法と結びつけることができる。									
授業形式	講義：○		演習：△		実習：		実技：△		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				各失語症検査の目的と構成内容を理解できる。				
	○	○	○	○		各失語症検査および掘り下げ検査をマニュアルを見ながら実施できる。				
	○	○	○			患者の様子や反応を観察し、適切に記録できる。				
	○	○		○		検査結果から問題点を抽出し、掘り下げ検査を立案できる。				
テキスト・教材 参考図書	教科書：藤田郁代監修 失語症学第2版 医学書院 2009 参考文献：小嶋知幸編著 なるほど失語症の評価と治療 その他：SLTA 標準失語症検査 マニュアル									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	失語症の評価・診断 具体的な検査法					Classiにて小テスト『基本的な評価の流れ』を実施(5択×5問)。30分			
	2	失語症者へのインテーク面接 スクリーニング検査					スクリーニング検査用紙を3日以内に提出。授業中に動画を撮影するためペアでそれを見直すこと。30分			
	3	標準失語症検査(SLTA)の構成 SLTAの実施					Classiにて小テスト『SLTAの構成』を実施(5択×5問)。30分			
	4	WAB失語症検査 重度失語症検査					Classiにて小テスト『WAB失語症検査、重度失語症検査』を実施(5択×5問)。30分			
	5	検査結果の解釈 モダリティ別言語病理学的問題点の抽出					次回講義までに、1症例のタイプ分類と問題点をまとめたレポートを提出。60分			
	6	失語症掘り下げ検査					Classiにて小テスト『掘り下げ検査1』を実施(5択×5問)。30分			
	7	コミュニケーション能力の評価 コミュニケーション能力の訓練					Classiにて小テスト『コミュニケーション能力の評価・訓練』を実施(5択×5問)。30分			
	8	単語の検査 文の検査					Classiにて小テスト『掘り下げ検査2』を実施(5択×5問)。30分			
	9	トークンテスト、SALA 失語症構文検査(STA)					Classiにて小テスト『掘り下げ検査3』を実施(5択×5問)。30分			
	10	失語症の言語症状 近縁症状、随伴しやすい症状					Classiにて小テスト『近縁症状』を実施(5択×5問)。30分			
	11	言語治療の理論と技法					Classiにて小テスト『言語治療』を実施(5択×5問)。30分			
	12	言語治療計画の立て方 各期別(急性期、回復期、維持期)の訓練・援助					Classiにて小テスト『各期別の特徴』を実施(5択×3問)。30分			
	13	評価サマリーの書き方 失語症者の社会復帰に向けて					次回、失語症グループ訓練を立案するため、各班次回講義時までに立案し、実演練習をしておくこと。90分			
	14	失語症グループ訓練の立案 失語症グループ訓練の実施					今回は実技試験『失語症者へのスクリーニング検査』を行うため検査準備、演習をしておくこと。90分			
	15	実技試験					定期試験に向けた学習をしておくこと。120分以上			
評価方法	(1)Classiで小テストを10回実施(10点)する他、レポートを2回(スクリーニング：5点)、グループ訓練立案(5点) (2)定期試験(筆記・実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	◎	◎				60%			
	小テスト	◎	◎				10%			
	レポート	◎	◎		◎		10%			
	定期試験(実技)			◎	◎		20%			
履修上の注意										

	高次脳機能障害Ⅱ						
科目名(英)	Higher brain dysfunction Ⅱ						
単位数	1		時間数	30時間		担当者	三田 智巳
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	言語聴覚士として病院に 勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	高次脳機能障害における評価の手順(観察を含む)を組み立てることができる。神経心理検査の使い方を確認し、各領域の検査概要を覚える。特にコース立方体組み合わせテスト、レーブン色彩マトリシス検査、改訂 長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)、Mini-Mental State Examination(MMSE)については確実に実施できるようになる。その他の高次脳機能障害の検査についても、概要を理解し、実施するための知識を身に付ける。国家試験対策のため、小テストの解説を覚え、アウトプットできる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技: △ ※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	○			実技テストにて、正しく検査が遂行できる。	
	○					高次脳機能障害の検査について説明できる。	
	○	○				国家試験問題を解くことができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:本間昭・高齢者のための知的機能検査の手引き、ワールドプランニング、原 寛美・高次脳機能障害ポケットマニュアル第3版、医歯薬出版、参考文献:服部 光男、全部見える 脳・神経疾患 成美堂出版、三村将、高次脳機能障害マエストロシリーズ②、医歯薬出版、藤田 郁代、標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学、医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ガイダンス、神経心理検査の概要。コース立方体組み合 わせテスト、				1年次の予習を1時間程度しておく。Classiによる15分程度の予習。	
	2	コース立方体組み合 わせテスト、レーブン色彩マトリシス検査、				Classiによる15分程度の予習。小テストの予習を30分しておく。	
	3	レーブン色彩マトリシス検査、改訂 長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)、				Classiによる15分程度の予習。小テストの予習を30分しておく。	
	4	改訂 長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)、Mini-Mental State Examination(MMSE)				Classiによる15分程度の予習。小テストの予習を30分しておく。	
	5	Mini-Mental State Examination(MMSE)、演習				Classiによる15分程度の予習。小テストの予習を30分しておく。	
	6	WAIS－Ⅲ、Ⅳの実施方法(動作性検査)				授業の復習を30分程度実施しておくこと。	
	7	WAIS－Ⅲ、Ⅳの実施方法(動作性検査)(言語性検査)				授業の復習を30分程度実施しておくこと。	
	8	WAIS－Ⅲ、Ⅳの実施方法(言語性検査)				授業の復習を30分程度実施しておくこと。	
	9	実技テスト(コース立方体組み合わせテスト、RCPM、HDS-R、MMSE)				実技テストの予習を3時間以上しておく。	
	10	実技テスト(コース立方体組み合わせテスト、RCPM、HDS-R、MMSE)				実技テストの予習を3時間以上しておく。	
	11	WAIS－Ⅲ、Ⅳ(考察)				Classiによる15分程度の予習。小テストの予習を30分しておく。	
	12	WAIS－Ⅲ、Ⅳ(症例検討)				Classiによる15分程度の予習。小テストの予習を30分しておく。	
	13	注意機能検査(TMT、BIT)				小テストの予習を30分しておく。	
	14	注意機能検査(BIT)				小テストの予習を30分しておく。	
15	まとめ				授業の復習を30分程度実施しておくこと。		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				60%
	小テスト	○	○				20%
	実技		○	○			20%
履修上の注意							

科目名	言語発達障害Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	浅田里美・吉次春香・若山恵
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	言語聴覚士として病院勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	1.脳性麻痺児の特徴と発達上の問題を理解する。2.言語発達障害と摂食機能障害の評価と訓練について理解する。						
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				脳性麻痺を引き起こす原因について説明することができる	
	○	○				それぞれの症状について説明することができる	
	○	○				脳性麻痺児の発達上の問題点を説明することができる	
	○	○				脳性麻痺児におけるコミュニケーション上の問題点を列挙しアプローチを説明することができる	
	○	○				脳性麻痺児の摂食嚥下の問題点を列挙しアプローチを説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	教科書： 言語発達障害Ⅲ(言語聴覚療法シリーズ 12)建帛社 いただきます 摂食研究グループ発行						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	脳性麻痺とは				授業内容に該当する教科書の復習をする	
	2	正常発達				授業内容に該当する教科書の復習をする	
	3	脳性麻痺児の発達上の問題				授業内容に該当する教科書の復習をする	
	4	脳性麻痺児のコミュニケーション上の問題				授業内容に該当する教科書の復習をする	
	5	摂食機能の発達				授業内容に該当する教科書の復習をする	
	6	摂食機能訓練のポイント				授業内容に該当する教科書の復習をする	
	7	摂食機能訓練の基礎(実習)				本日の実習における実技内容について演習する	
	8	脳性麻痺児の摂食評価と訓練の実際				授業内容に該当する教科書の復習をする	
	9	脳性麻痺児の言語発達障害とその特徴(1)				授業内容に該当する教科書の復習をする	
	10	脳性麻痺児の言語発達障害とその特徴(2)				授業内容に該当する教科書の復習をする	
	11	施設見学				これまでに学んだ基礎知識をもって観察視点を整理する	
	12	施設見学				これまでに学んだ基礎知識をもって観察視点を整理することができる	
	13	脳性麻痺児の評価と具体的アプローチ(1)				これまでに学んだ基礎知識を利用し、問題点を深める	
	14	脳性麻痺児の評価と具体的アプローチ(2)				これまでに学んだ基礎知識を利用し、問題点を深める	
	15	まとめ					
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				90%
	レポート	◎	◎				10%
履修上の注意	演習の際に、必要備品や食品持参が必要になります。また、演習の回はズボンで受講してください。						

科目名	言語発達障害Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	永野 淳子
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	1. ADHDおよび学習障害の定義・原因・診断方法 2. ADHDおよび学習障害の特性とアセスメント方法 3. ADHDおよび学習障害へのアセスメントをもとにした対応方法 4. 個別教育計画について						
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				ADHD、学習障害の定義・原因・診断方法について述べることができる	
	○	○				ADHD、学習障害の特性とアセスメント方法について説明できる	
	○	○	○			ADHD、学習障害のアセスメントに基づいた対応方法を述べることができる	
	○	○				個別支援計画について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:田中康雄「イラスト図解 発達障害の子どもの心と行動がわかる本」西東社 参考文献: 榎原洋一「図解 よくわかるADHD(注意欠陥多動性障害)」ナツメ社、上野一彦・梅津亜希子・服部美佳子「軽度発達障害の心理アセスメント」日本文化科学社、藤田和弘「長所活用型指導で子どもが変わるPart1,2,3」図書文化、田中康雄「軽度発達障害のあるこのライフサイクルに合わせた理解と対応」学研、杉山登志郎「子どもの発達障害と情緒障害」講談社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ADHD 注意とは？基礎知識・原因・症状・診断				教科書で予習復習をする	
	2	ADHD 対応方法と予後				教科書で予習復習をする	
	3	学習障害 体験実習・原因				体験実習の感想をまとめる	
	4	学習障害 症状・診断				教科書で予習復習をする	
	5	WISC-Ⅳ				記録用紙・マニュアル・検査用具を使って復習する	
	6	WISC-Ⅳ				記録用紙・マニュアル・検査用具を使って復習する	
	7	学習障害児 Wechsler検査の生かし方				資料を読み返しておく	
	8	KABC-Ⅱ				記録用紙・マニュアル・検査用具を使って復習する	
	9	KABC-Ⅱ				記録用紙・マニュアル・検査用具を使って復習する	
	10	DN-CAS				記録用紙・マニュアル・検査用具を使って復習する	
	11	学習障害児 ADHD 知能検査の生かし方				資料を読み返しておく	
	12	結果の伝え方と連携				教科書、資料で予習復習をする	
	13	学習障害児・ADHDのための個別教育計画				資料を読み返しておく	
	14	障害受容				資料を読み返しておく	
15	まとめ				授業で学んだことを項目別にまとめ、試験対策をする		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	言語発達障害Ⅴ						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	梶原 智寿
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	施設にて言語聴覚士として勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	発達検査の特性の理解 新版K式発達検査の特性の理解 検査結果のまとめ						
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				発達検査と知能検査の違いについて述べることができる	
	○	○				新版K式発達検査の概要を述べることができる	
	○					手引書に沿って、新版K式発達検査を実施できる	
	○					手引書に沿って、新版K式発達検査結果をプロフィールに記入できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:『新版K式発達検査2001 実施手引書』編著者:生澤雅夫 松下裕 中瀬惇 出版:京都国際社会福祉センター						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	発達検査について／新版K式発達検査の意義・目的				教科書で復習する	
	2	実施上の注意／検査用紙・検査問題の構成について				教科書で復習する	
	3	演習(3～4葉 言語領域中心)				記録用紙・手引書で予習復習する	
	4	演習(3～4葉 言語領域中心)				記録用紙・手引書で予習復習する	
	5	演習(3～4葉 認知領域中心)				記録用紙・手引書で予習復習する	
	6	演習(3～4葉 認知領域中心)				記録用紙・手引書で予習復習する	
	7	演習(3～4葉 認知領域中心)				記録用紙・手引書で予習復習する	
	8	演習(1～2葉)				記録用紙・手引書で予習復習する	
	9	演習(1～2葉)				記録用紙・手引書で予習復習する	
	10	記録よりプロフィール線の書き方・得点化・DQ・DAの求め方				記録用紙・手引書で予習復習する	
	11	判定・記録・得点化・結果の出し方の練習				記録用紙・手引書で予習復習する	
	12	判定・記録・得点化・結果の出し方の練習				記録用紙・手引書で予習復習する	
	13	検査結果のまとめ方				記録用紙・手引書で予習復習する	
	14	検査結果のまとめ方				記録用紙・手引書で予習復習する	
	15	まとめ				学んだことを整理し、まとめ、試験対策をする	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	器質性構音障害						
科目名(英)	Organic dysarthria						
単位数	1		時間数	30時間		担当者	城丸 みさと
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	病院にて言語聴覚士として勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	小児の言語障害で大きな比重を占める構音障害のうち、器質性構音障害(主に口蓋裂) について学ぶ。器質性構音障害の基礎知識、具体的な検査、指導訓練の基礎を身に付けることを目標とする。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				構音障害の種類について概要を説明し、構音検査が実施できる	
	○	○				器質性構音障害における構音障害の特徴について説明できる	
	○	○				口蓋裂の病態について説明することができる	
	○	○				口蓋裂による構音障害の発現機序について説明することができる	
		○				器質性構音障害の検査後、指導、訓練について基本的な立案と実践ができる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院「口蓋裂の言語治療」岡崎恵子編著 「言語聴覚士テキスト」医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	基礎知識:小児の構音障害概説と音声表記復習				構音表記を復習して講義に臨む	
	2	基礎知識:未熟構音と異常構音—その1				構音表記を復習して講義に臨む	
	3	基礎知識:異常構音の種類と特徴—その 2				構音表記を復習して講義に臨む	
	4	口蓋裂の発生と解剖				構音表記を復習して講義に臨む	
	5	口蓋裂の基礎知識:手術と術後の対応				構音表記を復習して講義に臨む	
	6	検査:発声発語器官に関する検査:口腔内視診(演習)				構音表記を復習して講義に臨む	
	7	鼻咽腔閉鎖機能に関する検査				構音表記を復習して講義に臨む	
	8	指導・訓練:音の獲得の段階				構音表記を復習して講義に臨む	
	9	指導・訓練:会話への般化まで				構音表記を復習して講義に臨む	
	10	構音訓練・検査のまとめ(演習)				構音表記を復習して講義に臨む	
	11	鼻咽腔閉鎖機能不全に対応する2次的対応				構音表記を復習して講義に臨む	
	12	口蓋裂治療パノラマ(復習)とその他の器質的構音障害				構音表記を復習して講義に臨む	
	13	その他の器質的構音障害(口腔・中咽頭癌など)				構音表記を復習して講義に臨む	
	14	国家試験の傾向と対策				まとめの内容を復習し、定期試験対策としてまとめる	
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				80%
	小テスト	○	◎				10%
	宿題・レポート	○	◎				10%
履修上の注意							

科目名	運動障害性構音障害Ⅰ						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	灘吉 享子
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	病院にて言語聴覚士として勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	1)構音運動のメカニズムについて理解し説明できる。2)構音障害の特徴について理解し、運動障害性構音障害の診断と分類ができる。3)言語聴覚士に必要なふるまいやコミュニケーション態度、学習能力の基礎を築き、個人 の課題を具体的に見つけることができる。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				運動障害性構音障害の発生機序を説明するために、構造と機能を説明することができる。	
	○	○				運動障害性構音障害の病態について説明できる。構音障害の発現機序を説明できる。	
		○	○			運動障害性構音障害について、一般情報収集から問診および検査について説明できる。	
				○		言語聴覚士としてのふるまいについてイメージをもち、態度に反映することができる。	
				○	○	授業において疑問に思うことができ、問題解決のために質問に結びつけることができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書: 西尾 正輝著 ディサースリア臨床標準テキスト インテルナ出版 2014 廣瀬 肇 他 著運動障害性構音障害学 医歯薬出版株式会社 2007						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	構音障害の概念と分類／運動障害性構音障害とは					1年次臨床神経科学、音声学、解剖学といった関連する知識の資料整理
	2	運動障害性構音障害の問題と今後／発声発語と神経・筋系のしくみ(肺)					1年次保健体育、解剖学など関連する教科の復習 講義資料および教科書を使用し復習
	3	発声発語と神経・筋系のしくみ(喉頭・構音に関与する器官)					1年次保健体育、解剖学など関連する教科の復習 講義資料および教科書を使用し復習
	4	運動系の基礎理解					1年次に学習した神経系の復習 講義資料および教科書を使用し復習
	5	運動系の障害					1年次に学習した神経系の復習 講義資料および教科書を使用し復習
	6	運動系の障害					1年次に学習した神経系の復習 講義資料および教科書を使用し復習
	7	聴覚的発話特徴					サンプルCDの聴取課題 講義資料および教科書を使用し復習
	8	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴					講義資料および教科書を使用し復習
	9	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴					講義資料および教科書を使用し復習
	10	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴					講義資料および教科書を使用し復習
	11	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴					講義資料および教科書を使用し復習
	12	確認テスト/検査と評価					テスト内容の振り返り復習
	13	検査と評価					実技演習の予習復習
	14	評価(一般情報の収集)					実技演習の予習復習
	15	まとめ					これまでの授業資料整理および内容まとめをする
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	小テスト	○					10%
	宿題・レポート	○	○				10%
	グループ発表	○			○		10%
履修上の注意							

科目名	嚥下障害Ⅰ						
科目名(英)	DysphagiaⅠ						
単位数	2		時間数	60時間		担当者	八木 智大
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	病院にて言語聴覚士として勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	摂食嚥下障害について基本的な概念を学びます。また、摂食嚥下障害によって引き起こされる合併症や関連障害が私たちの生活に与える影響について具体的に想像できるだけの知識を獲得します。嚥下障害や関連障害に対する訓練や支援方法を立案する為に、病態の評価方法や手技を学び演習を通じて技術の獲得を目指します。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技: △ ※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				摂食嚥下に対するリハビリテーションの目的を説明することができる。	
	○	○				摂食嚥下に関与する神経、筋を含む構造を説明できる。	
	○	○				健常人における摂食嚥下モデルを説明することができる。	
	○		○			摂食嚥下障害に対する基本的な評価技法をクラスメートに実施することができる。	
		○		○		自らの考えをグループワークや個別課題の中で表現することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:藤島一郎ほか「脳卒中の摂食嚥下障害 第3版 web動画付き」医歯薬出版株式会社、2017 聖隷嚥下チーム「嚥下障害ポケットマニュアル 第3版」医歯薬出版株式会社、2018						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	嚥下障害総論～「食べる」とは、「食べられない」とはどういうことか考える授業～				教科書の該当部分を復習する(30分)	
	2	健常人における嚥下器官の構造を観察し、絵をかくて説明できるようになる				教科書の該当部分を復習する。資料を基に嚥下器官の構造を図示できるようになっておく(1時間)	
	3	嚥下モデルを学ぶ				教科書の該当部分を復習する(30分)	
	4	嚥下に関わる筋肉について解剖や役割を学ぶ				教科書の該当部分を復習する(30分)	
	5	嚥下に関わる神経について局在や役割を学ぶ				教科書の該当部分を復習する(30分)	
	6	摂食嚥下障害の原因と病態を学び列挙することができる。				教科書の該当部分を復習する(30分)	
	7	脳卒中による嚥下障害を学び病態の特徴を説明できるようになる				教科書の該当部分を復習する。次の授業に向けて担当項目のレポートをまとめる(1時間)	
	8	クラスメートに教えよう① 嚥下モデルや神経、筋のレポート作成				教科書の該当部分や個人レポートを参考に、全体に向けた授業作りをグループで完成させる(2時間)	
	9	クラスメートに教えよう② レポートを基にクラス全員に授業を行う				クラスメートが作成したレポート、授業を基に復習する(30分)	
	10	摂食嚥下障害の評価演習 ～観察～				教科書の該当部分を復習し、クラスメートと模擬演習を行う(1時間)	
	11	摂食嚥下障害の評価演習 ～簡易検査～				教科書の該当部分を復習し、クラスメートと模擬演習を行う(1時間)	
	12	摂食嚥下障害の評価 ～精密検査～ 検査映像から嚥下器官の動きをとらえる				教科書の該当部分を復習し、クラスメートと模擬演習を行う(1時間)	
	13	合併症と関連障害について知り、嚥下訓練の目的を考える				教科書の該当部分を復習する(30分)	
	14	模擬症例について考える(グループワーク)				教科書の該当部分を復習する／実技試験に向けた模擬演習を行う(2時間)	
	15	実技試験 定期試験				教科書の該当部分を復習する(1時間)	
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する(3～8回目の授業開始時に前回授業の内容について実施する予定です)。 (2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記・実技)	◎	◎	◎			60%
	小テスト	◎	◎				20%
	発表				◎		20%
履修上の注意							

科目名	画像診断学						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	岡村 和俊・三田 智巳
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	画像検査装置一般の概要を提示する。また画像によりえられる情報を提示する。						
授業形式	講義：○		演習：		実習：		※主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					画像検査装置の種類を列挙することができる。	
		○				画像検査の機械的原理を概説することができる。	
		○				頭部画像検査の結果と疾患病態などの情報を結びつけることができる。	
		○				嚥下造影検査について概説することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書：梶間 剛、国家試験にも臨床にも役立つ！リハビリPT・OT・ST・Drのための脳画像の新しい勉強本。 三輪書店、						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	画像診断学総論（岡村和俊）				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	2	放射線生物学（岡村和俊）				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	3	放射線防護学Ⅰ（岡村和俊）				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	4	放射線防護学Ⅱ（岡村和俊）				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	5	CT診断学（岡村和俊）				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	6	MR診断学（岡村和俊）				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	7	CT, MRI診断学（頭頸部）（岡村和俊）				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	8	嚥下の画像診断（岡村和俊）				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	9	脳機能画像（核医学など）（岡村和俊）				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	10	1-9のまとめ、復習（岡村和俊）				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	11	脳解剖からみた脳画像 基本（三田 智巳）				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	12	脳解剖からみた脳画像 応用（三田 智巳）				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	13	CT・MRI 基本・国家試験問題（三田 智巳）				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	14	CT・MRI 応用・国家試験問題・症例（三田 智巳）				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	15	まとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	聴覚障害Ⅵ						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	星子 隆裕
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	病院にて言語聴覚士として勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	本講義では視覚障害、聴覚障害を持った方の困難さおよび視聴覚二重障害を持った方の困難さを具体的事例として知ることを目標にします。また、障害を持った方の情意を推し量ることができるようになることを目標にします。ビデオ教材や体験学習、当事者の講話を通して感じたことをレポートにまとめます。						
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				視聴覚二重障害のタイプを列举し、タイプ別のコミュニケーションモダリティが提案できる。	
		○		○		当事者の講話を自分事として受け止め、さまざまな困難さに気が付くことができる。	
	○			○		フィールドワークを通して社会的環境的問題を指摘することができる。	
テキスト・教材 参考図書	テキスト: 盲ろう者の移動介助・知ってください盲ろうについて(印刷資料) 参考文献: 言語聴覚士テキスト 参考資料: 各種視聴覚教材						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	視聴覚二重障害総論				国家試験過去問題集から視聴覚二重障害の範囲の問題に目を通しておく。(30分)	
	2	視聴覚障害を持ちながら社会に生きる				気づき・感想レポートを2日後までに担当教員のレターボックスに提出する。(30分)	
	3	アッシャー障害とともに生きる				気づき・感想レポートを2日後までに担当教員のレターボックスに提出する。(30分)	
	4	盲導犬とともに生きる				気づき・感想レポートを2日後までに担当教員のレターボックスに提出する。(30分)	
	5	難聴者で現役STの講話				気づき・感想レポートを2日後までに担当教員のレターボックスに提出する。(30分)	
	6	聴覚障害支援者の講話				気づき・感想レポートを2日後までに担当教員のレターボックスに提出する。(30分)	
	7	聴覚障害支援者の講話				気づき・感想レポートを2日後までに担当教員のレターボックスに提出する。(30分)	
	8	視覚障害者の講話				気づき・感想レポートを2日後までに担当教員のレターボックスに提出する。(30分)	
	9	ろうあ者の講話				気づき・感想レポートを2日後までに担当教員のレターボックスに提出する。(30分)	
	10	暮らしを考える(フィールドワーク準備)				フィールドワーク計画書の作成(1時間)	
	11	フィールドワーク				フィールドワーク報告会の準備(2時間)	
	12	フィールドワーク				フィールドワーク報告会の準備(2時間)	
	13	フィールドワーク報告会				国家試験過去問題集から視聴覚二重障害の範囲の問題に目を通しておく。(2時間)	
	14	視聴覚二重障害国家試験対策学習				プリントによる振り返り(1時間)	
	15	まとめ					
評価方法	1) 期末に定期試験を行う。定期試験は国家試験形式と記述問題とする。気づき・感想レポートは自分の気づきだけでなく、クラスメイトの気づきであっても記載して構わない。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				60%
	小テスト						なし
	宿題・レポート		○		○		30%
	質問・取り組み				○	○	10%
履修上の注意	障がいの持つ持たない関係なく、人に接することを常に考えて学習行動をとってください。						